

夏秋キュウリ（露地栽培）の病害虫の発生状況（8月中下旬）

1 ベと病

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図1）。高湿度や肥切れにより、本病が発生しやすくなるため、適切な施肥を実施し、発生初期から防除を実施してください。

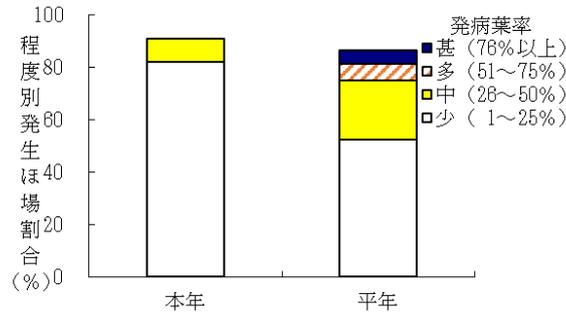


図1 ベと病の発生状況

2 うどんこ病

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図2）。まん延すると防除が困難になるので、発生初期から防除を実施してください。

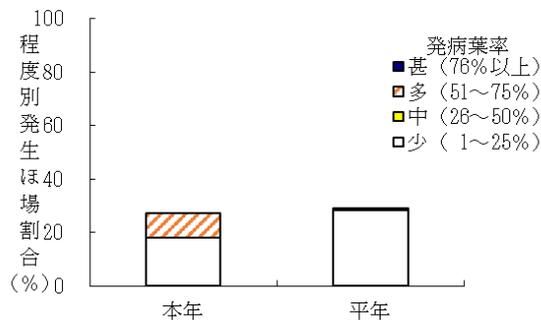


図2 うどんこ病の発生状況

3 炭疽病

巡回調査による発生ほ場割合は、平年並でした（図3）。まん延すると防除が困難になるので、り病葉は摘除し、発生初期から防除を実施してください。

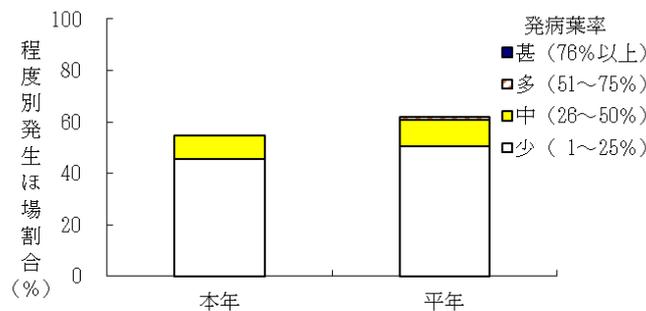


図3 炭疽病の発生状況

4 褐斑病

巡回調査における発生ほ場は、平年よりやや低い状況でした（図4）。まん延すると防除が困難となるので、り病株は摘除し、発生初期から防除を実施してください。また、被害茎葉残さは必ずほ場外に持ち出し処分してください。

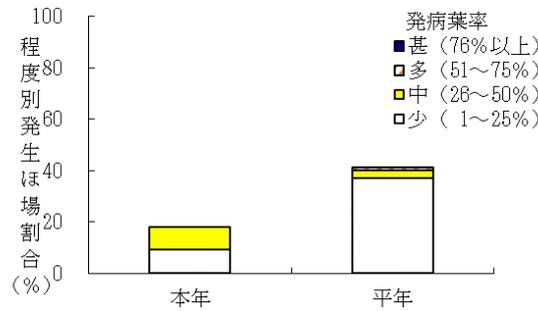


図4 褐斑病の発生状況

5 つる枯病

巡回調査による発生ほ場割合は、平年並でした（図5）。まん延すると防除が困難になるので、予防的防除を実施してください。発生を確認した場合、被害部分を速やかに取り除き、ほ場外で適切に処分してください。

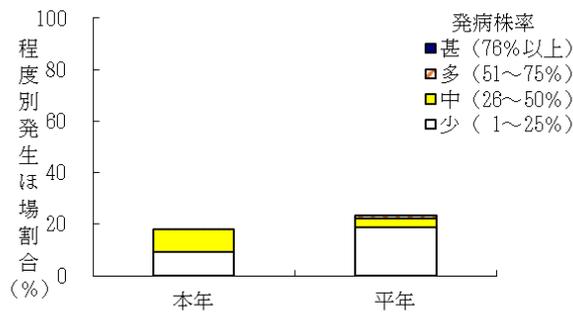


図5 つる枯病の発生状況

6 アブラムシ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年よりやや高い状況でした（図6）。ほ場をよく観察し、発生がみられた場合には、速やかに防除を実施してください。また、アブラムシ類が媒介して感染、発病する CMV 等のモザイク病の発生ほ場割合も平年よりやや高い状況のため注意が必要です（図7）。

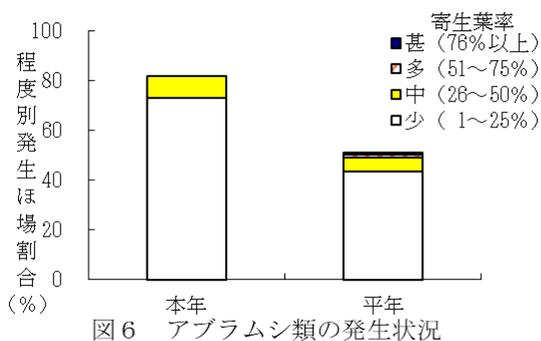


図6 アブラムシ類の発生状況

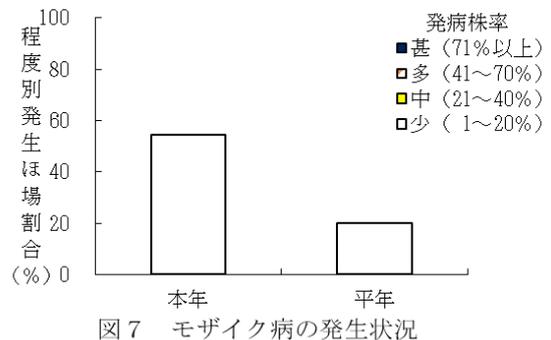


図7 モザイク病の発生状況

7 ハダニ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図8）。多発すると防除が困難になるので、ほ場をよく確認して、低密度時から防除を徹底してください。薬剤防除を行った場合には、防除の2～3日後に葉裏を観察し、効果が十分でない場合には、異なる系統の薬剤で防除を行うなど適切に対応してください。

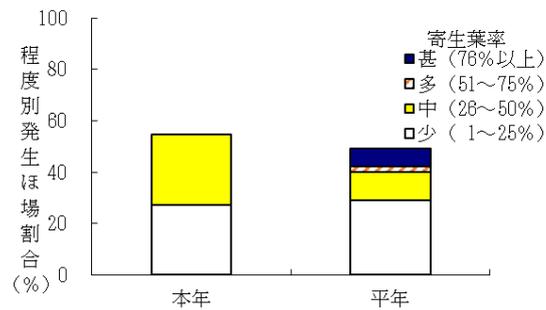


図8 ハダニ類の発生状況

8 アザミウマ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年よりやや低い状況でした（図9）。また、主な寄生種はミカンキイロアザミウマでした。多発すると防除が難しくなるので、ほ場をよく確認して、低密度時から防除を徹底してください。薬剤抵抗性の発達を防止するため、異なる系統の薬剤で防除を行ってください。

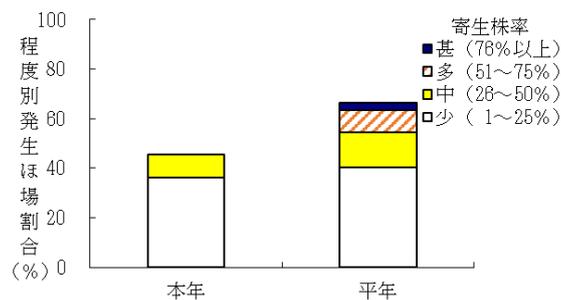


図9 アザミウマ類の発生状況

※ 夏秋露地きゅうりの巡回調査では、下記の11ほ場を調査しています

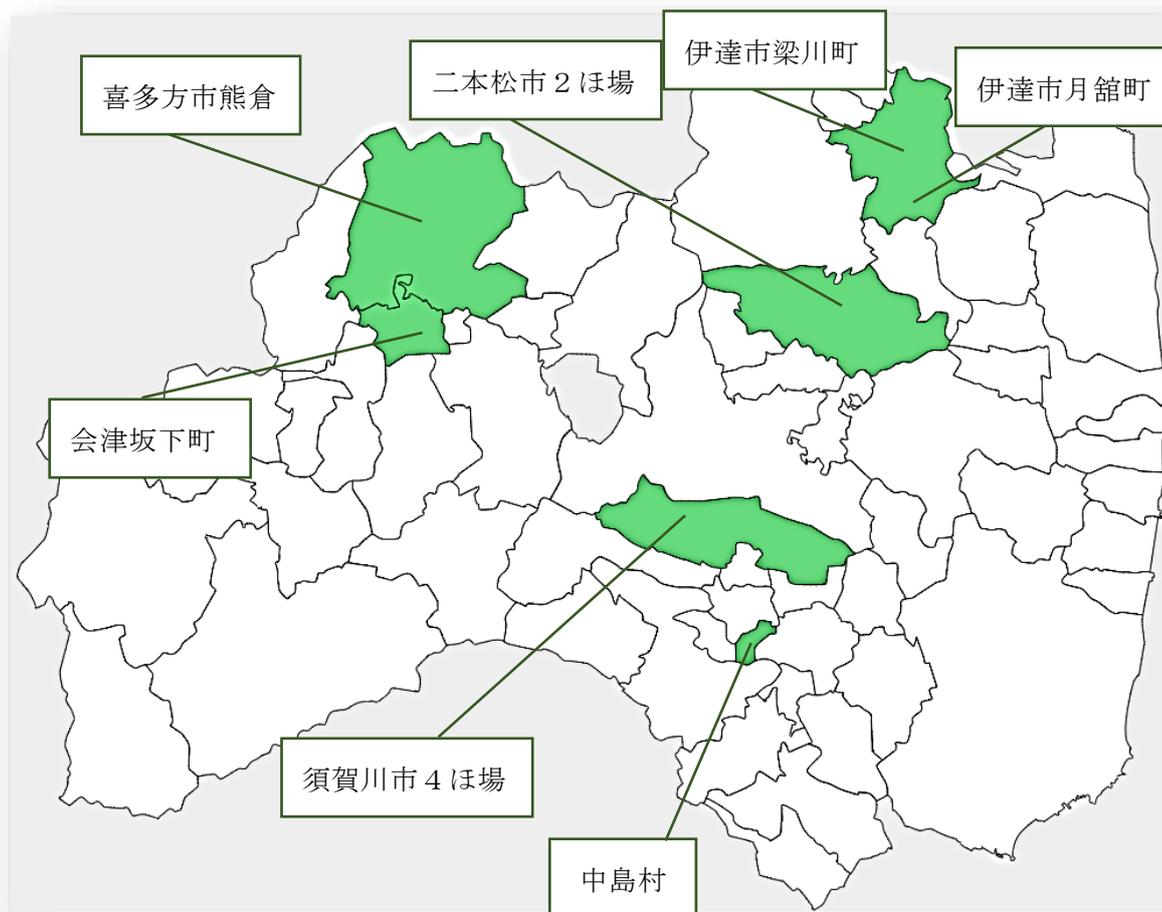


図 キュウリの巡回調査地点

※網掛け：夏秋キュウリの巡回調査地点。6市町村、11地点

● 情報内容への質問や要望は、福島県病虫害防除所まで御連絡ください。

Tel:024-958-1709

Fax:024-958-1727

e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp